中等學校用

裁縫要義

下卷

原本

東京　本郷

渡邊女學校出版部

1 — 25 玉置
26 — 30 尾中
31 — 37 玉置
38 — 90 尾中
91 — 128 玉置
129 — 149 箱田
150 — 202 尾中

玉置 70
尾中 111
箱田 21

中等學校用

裁縫要義

下卷

東京女子大學

東京 本郷
渡邊女學校出版部

緒　言

中等教育新裁縫教科書は大正十二年の大震災直後に大急ぎで編纂したもので自ら甚不滿足であつた。それ故に爾來研究に研究を續け特に二年前からは編纂委員會を設けて愼重に審議し,此程漸く脫稿したのである。

特に意を用ひたのは用語用字の正確な事である。あて字や國語教授と矛盾するやうな文字用語は全然用ひてない。

本書は四ケ年制の實業學校用として編纂したものではあるが同時に高等女學校生徒の參考書としても適當と信ずる。

昭和十二年十二月十日

渡　邊　　滋

中等學校用

裁縫要義

下卷目次

第一章　大裁女袷羽織……(1)
第二章　大裁男袷羽織……(12)
第三章　大裁單衣羽織……(18)
第四章　中小裁羽織……(26)
第五章　袖無羽織……(31)
第六章　女袴……(38)
第七章　中小裁女袴……(53)
第八章　男袴……(56)
第九章　中小裁男袴……(86)
第十章　襠無袴……(88)
第十一章　長コート……(91)
第十二章　袷半コート……(115)
第十三章　中裁綿入被布……(120)
第十四章　小裁被布……(127)
第十五章　和服禮裝……(129)

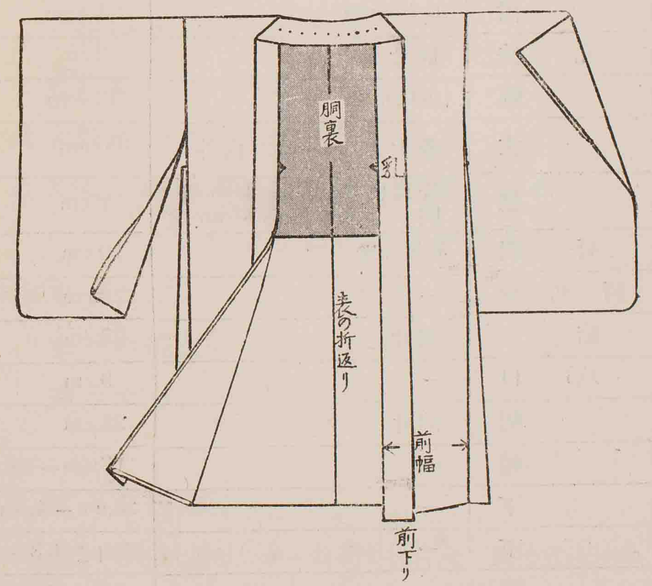
第十六章　小袖無垢……(131)
第十七章　小袖重……(145)
第十八章　比翼……(150)
第十九章　女物單衣重……(166)
第二十章　夜具蒲團類……(178)
第二十一章　子守袷纏……(201)

中等學校用　# 裁縫要義　下卷

第一章

大裁女袷羽織

各部の名稱



地　質

裏地　滑り良き地質を用ふ。

綿　布　瓦斯甲斐絹,更紗,新モス,ナフトール

絹　布　甲斐絹,八ツ橋,富士絹,羽二重

其の他　人絹,メリンス

仕立上寸法

名稱	長着を標準としての增減	普通寸法
袖丈	同寸乃至2cm減	60.cm内外
袖口	同寸	23.cm
袖附	0.4cm增	23.4cm
袖丸味	同寸	2.cm
袖幅	0.4cm增	32.4cm
身丈	着丈×$\frac{3}{4}$＋5cm内外	100.cm
繰越	長着にない場合1cm增 同　ある場合0.5cm增	2.cm
衿肩明	0.5cm增	10.cm
衿肩丸身	―	2.5cm
紵	同寸	62.cm
身八口	―	9.cm
後幅	同寸	28.cm
前幅	―	17.cm―18.cm
前下	―	3.cm―4.cm
乳下	―	肩山より32.cm内外
衿幅	―	6.5cm
襠幅	―	上2.cm 下6.5cm

裁　方

1　裁切寸法の定方

表

袖丈　＝仕立上袖丈＋縫代

衿丈　＝(仕立上身丈＋23cm)×2

23cm＝10cm＋2cm＋1cm＋4cm＋6cm
衿肩明　繰越　三衿縫代　前下　衿先縫代

身丈
- 後＝仕立上身丈＋折返代(40cm内外)
- 前＝後裁切身丈＋前後の差(20cm内外)

前後の差に就て

普通寸法＝20cm内外

最少限度＝(前下＋縫代×2

最大限度＝前胴接の位置が乳下より4cm下つた所になる様に前を長くする。

袖口布丈＝(仕立上袖口＋5cm)×2

襠　丈＝前褄裁落丈－袖口布丈

乳　布＝丈…4cm・幅…1.5cm

裏

袖　丈＝表と同寸

胴裏丈
- 後＝仕立上身丈×2－裁切表後身丈＋胴接代(10cm)
- 前＝(仕立上身丈＋前下＋縫代)×2－裁切表前身丈－胴接代(10cm)

2 裁方積方

表

附圖第一圖參照

(總用布－袖丈×4－衿丈－前後の差×2)÷4

＝裁切後身丈

裁切後身丈＋前後の差＝裁切前身丈

折　積

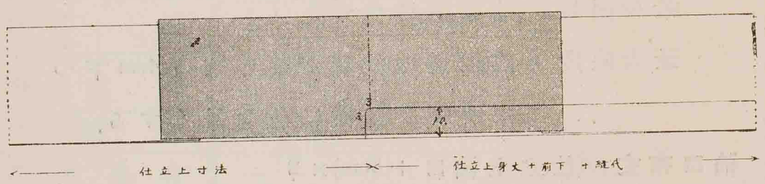
附圖第二圖參照

裏

附圖第三圖參照

袖丈×4＋(後胴裏丈＋前胴裏丈×2)＝裏總用布

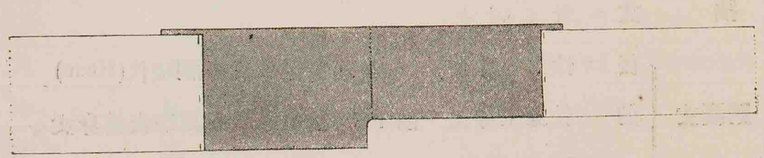
圖落裁の襠.口袖

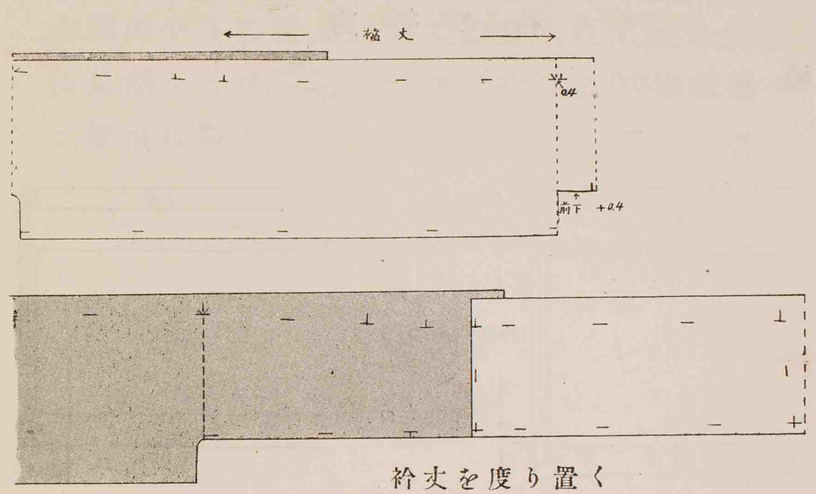


標附方

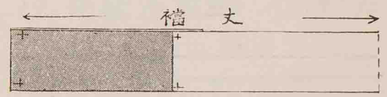
袖　本裁女袷長着に同じ。

襠





衿丈を度り置く



襠

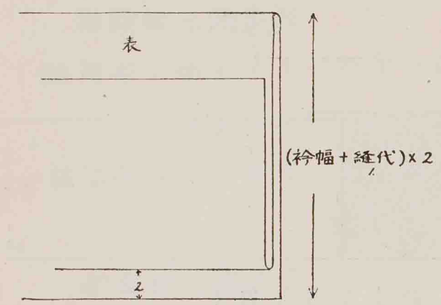
上圖の様に丈標をなし,表裏を接ぎ合せ,上部を縫つて表に返し,中央に躾をして襠附の標をなす。

上圖の様に襠附標をなす。斜の多い方を前襠附とす。

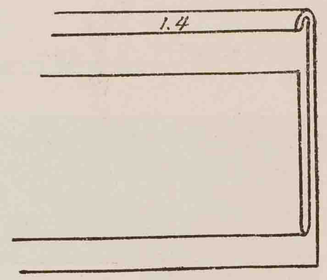
衿の折方

衿

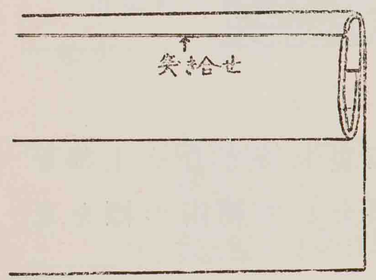
一



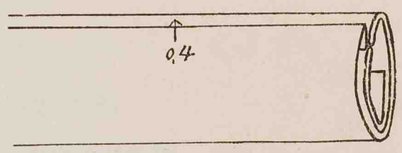
二



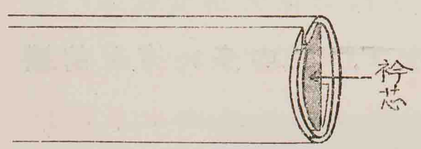
三



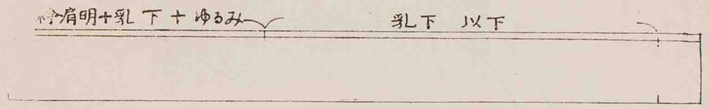
四



五



上圖のやうに衿を折つて芯を入れ下圖のやうに丈標をなす。衿芯は仕立上衿幅より0.3cm程控へて厚地綿布を入れる。



縫方

順序

(1)袖　(2)胴接　(3)前下　(4)脊縫及裾芯　(5)襠及身八口　(6)袖附　(7)衿附　(8)仕上

方法

袖

女袷長着に同じ

胴接

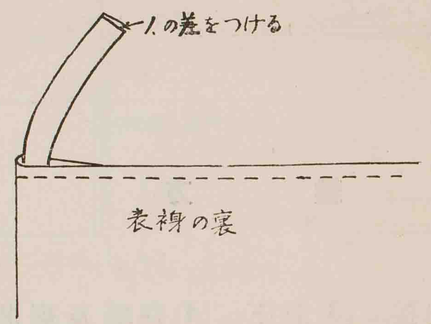
標通りに待針を打ち,0.1cmの着せの掛かるやう小針に縫ひ,折は胴裏の方へ返す。

前下

表は標通り裏は標より0.4cm縫ひ込むやうに待針を打ち前幅標の間を伸ばさぬやうに縫ひ。裏の方に0.2cmの着せを掛けて表に返し,表を裏に0.2cm見返へして一束に躾を掛ける。

背縫及裾芯

裾山から10cm程を別々に縫ひ,それより上を四縫にし下圖の如く裾山に芯を入れて綴ぢる。



襠及身八口

裏で襠を挾んで裾山は背と同様に縫ひ,襠の上部に抄留をなし,身八口まで續けて縫ふ。

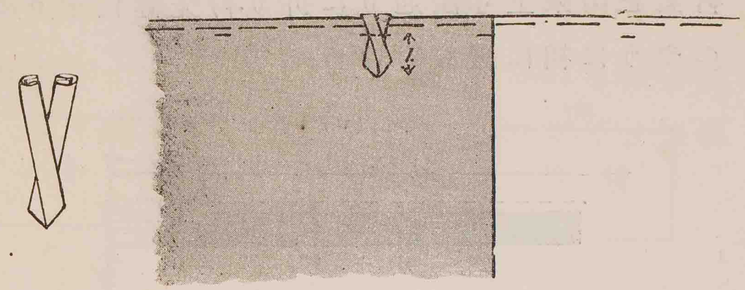
袖附

女袷長着に同じ

衿附

裏の假綴。表裏の衿附標を合せ,躾糸にて假綴をなす。

乳附。下圖の様に乳布を疊んで裏裏の方へしつかり附ける。



左

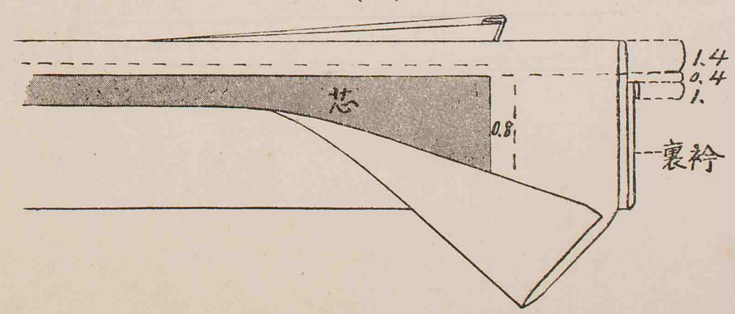
右は反對に重ねる

衿附の待針。衿の縫代を1cmとして衿丈の中央を裏裏の背に合せ,衿肩廻は衿を0.4cm寛く,それより乳下までは衿を0.2cm寛く,乳下より下は平な釣合になし,裾にて裏の縫代を0.5cm位深くなす。

縫方。衿先縫代が折り返る間と乳の所とは半返縫をなし,衿肩廻は小針に,背の縫目にて一針返して縫ひ,表衿の方へ0.4cmの着せを掛ける。

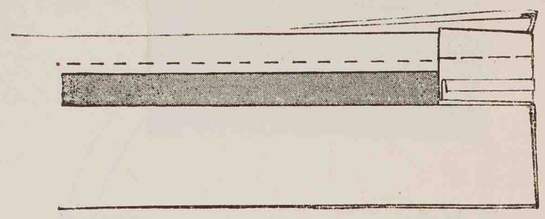
衿先縫。(イ)圖のやうに裏衿を向ふ側に折り,芯を仕立上衿丈に切り,衿先に0.8cmの着せが掛かるやうに裏衿幅の間を縫ふ。

(イ)



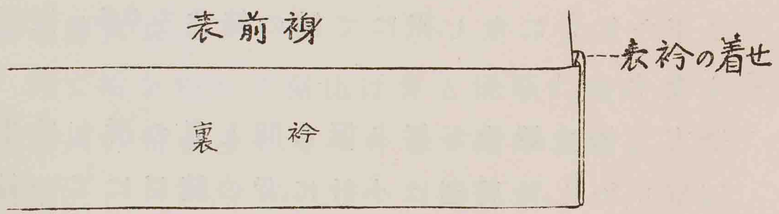
衿丈を出來上寸法通りに折り,衿先縫代を(ロ)圖のやうに裾に綴ぢ附ける。

(ロ)

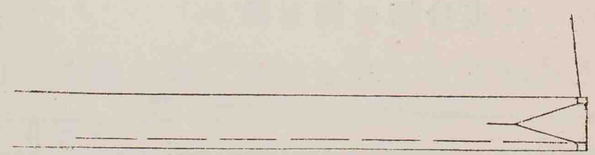


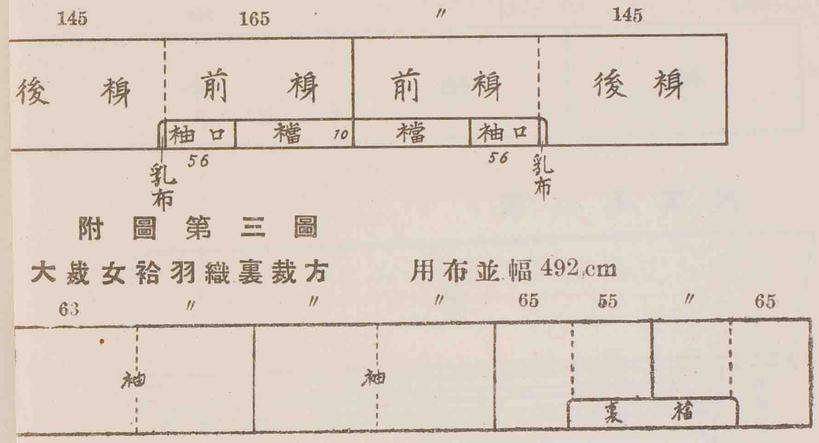
衿附縫代を疊み附けて衿を表に返すと(ハ)圖のやうになる。

(ハ)



衿紵及躾　衿肩廻は縫糸の見えぬやうに小針にて紵ける。乳より下は裾に0.2cmの着せを掛け,正しく折つて圖のやうに躾をなす。

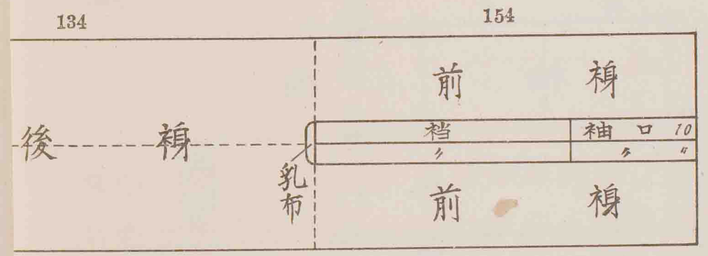


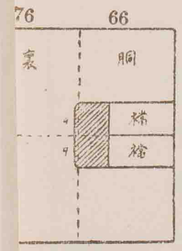


附圖第三圖

大裁女袷羽織裏裁方　用布並幅492cm

丈長き場合)





(ロ)圖

(ハ)圖の

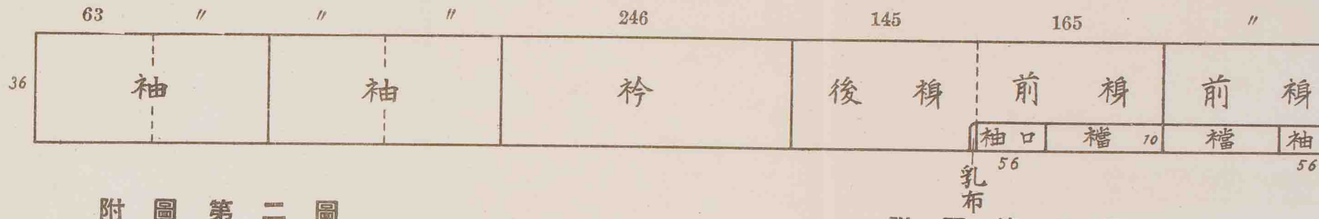
合の着せ

に小針

を掛け,

附圖第一圖

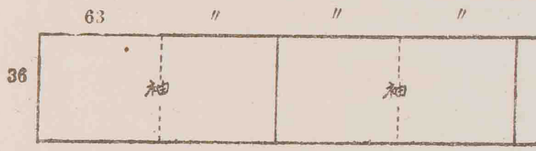
大裁女袷羽織表裁方　用布並幅1118 cm



附圖第二圖

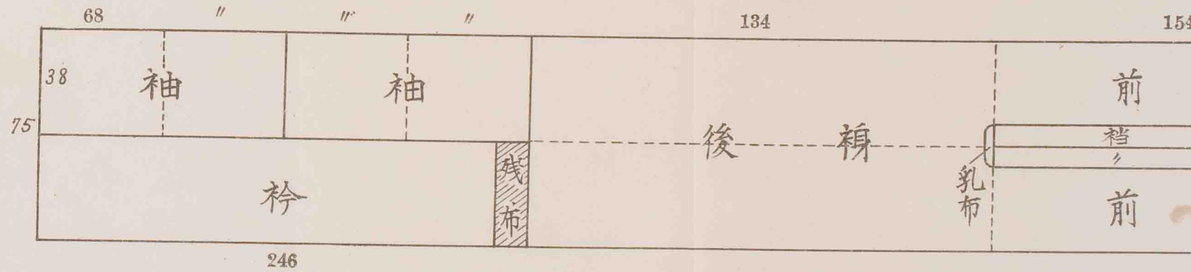
附圖第三圖

大裁女袷羽織裏裁方　用布並



附圖第四圖

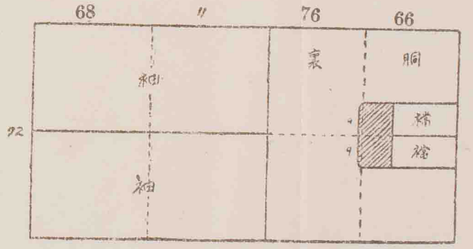
大裁女袷羽織表裁方　用布廣幅560 cm(袖丈長き場合)



附圖第五圖

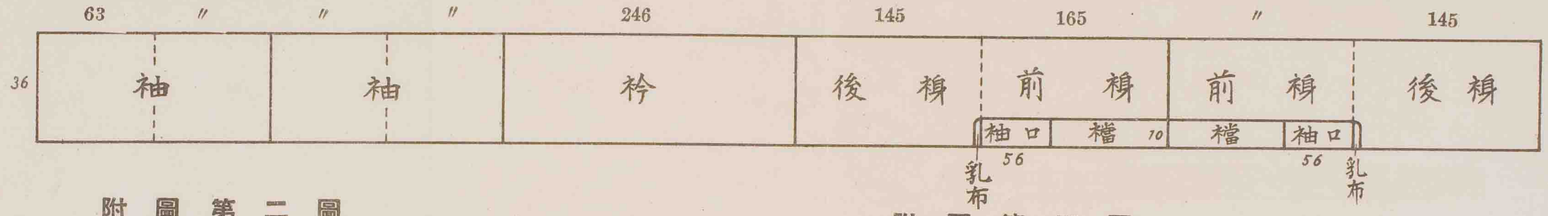
大裁女袷羽織裏裁方

用布廣幅298 cm

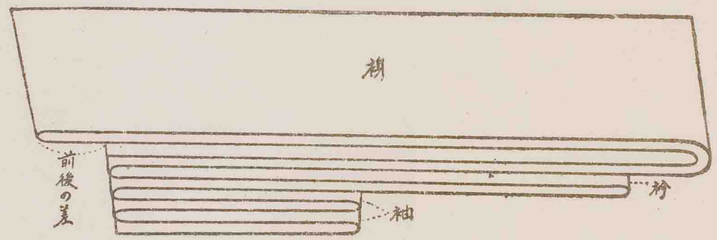


附圖第一圖

大裁女袷羽織表裁方　用布並幅1118 cm



附圖第二圖

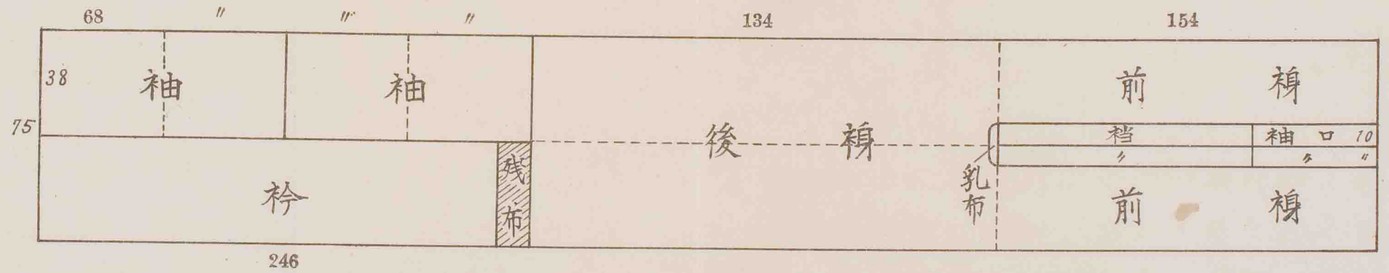


附圖第三圖

大裁女袷羽織裏裁方　用布並幅492 cm

附圖第四圖

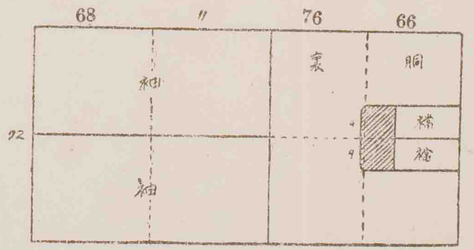
大裁女袷羽織表裁方　用布廣幅560 cm（袖丈長き場合）



附圖第五圖

大裁女袷羽織裏裁方

用布廣幅298 cm



仕上

着物裁羽織の裁方

其の一

前後の差は表布で附けずに裏布で附け,衿丈を長着の衿衽丈になるやうに裁つ。

其の二

前褄から襠,袖口を裁ち落さずに長着と同じやうに裁つ。

廣幅物の裁方

表

(附圖第四圖參照)

衿丈及袖丈の定方

袖總丈と衿總丈とを比較し長い方を標準として用布から取る。

裏

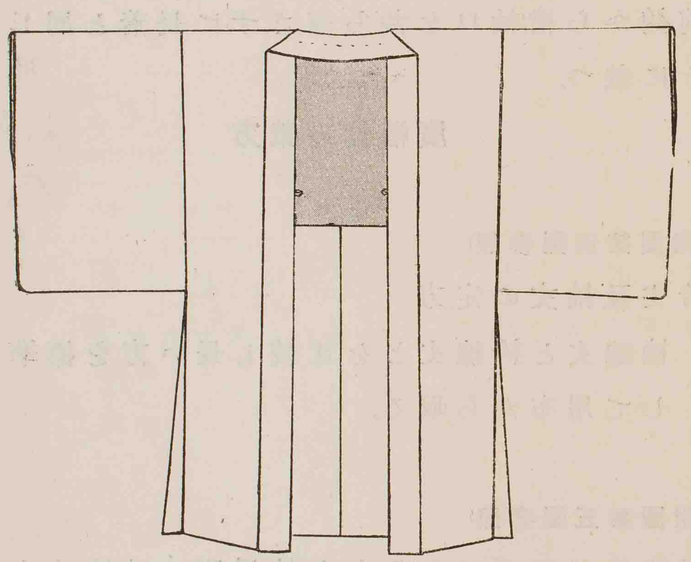
(附圖第五圖參照)

背縫代が不要であるから衿肩明の寸法は表より小さく裁つ。

第二章

大裁男袷羽織

出來上圖



仕立上寸法

名稱	長着を標準としての增減	普通寸法
袖丈	0.5cm增	54.cm 內外
袖口	同寸	28.cm 乃至 30.cm
袖附	袖丈を全部附ける	—
袖形	同寸	2. cm
袖幅	同寸	34. cm
身丈	着丈×$\frac{3}{4}$	105. cm內外
繰越	—	1. cm
袷肩明	0.5cm 增	10. cm
袷肩丸味	—	2.5 cm
紵	同寸	66. cm
後幅	同寸	30. cm
前下	—	4. cm
前幅	—	19.cm乃至 20cm
乳下	—	肩山より32.cm乃至34.cm
袷幅	—	7.cm乃至7.5cm
襠幅	—	袷幅と同寸

裁　方

女物に同じ

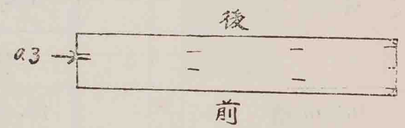
標附方

袖及褄

女物に同じ,但袖附は袖丈に同じ。

襠

上部は着代として0.3cm離して標をなす。其の他は女物に同じ。



縫　方(衿袋附)

順序

(1)袖　(2)胴接　(3)前下　(4)脊縫　(5)後襠附　(6)衿附　(7)袖附　(8)袖八留及袖下縫　(9)前襠附　(10)裏袖附紵

方法

袖

袖口を合せて四留をなし,袖口下まで縫つて置く。

胴接

前下

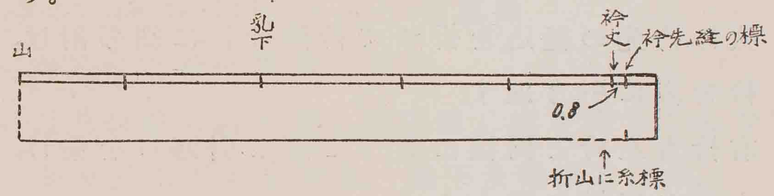
背縫

後襠附

衿附

褄の假綴は女物に同じ,乳は女物と反對に附ける。

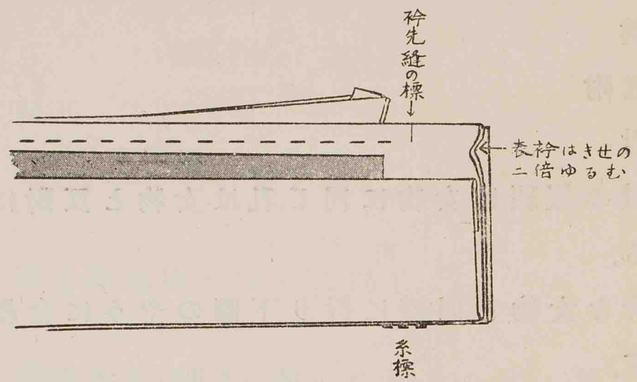
衿を女物と同様に折り下圖のやうに合標をなす。



女物と同様に衿附の待針を打ち,前褄を衿幅より狹く折り疊み,是を衿でくるみ衿の合標を合せて待針を打ち直す。左衿先から縫上げて右肩山から2cm下つた處まで一束に縫ひ,それより15.cm位は裏衿一枚を殘して(引返口)縫ふ。

衿先

下圖のやうに折山の糸標の處を折つて,平な釣合にて衿先縫の合標に待針を打ち,表の衿附縫目より着の二倍即0.8cm手前まで縫ふ。



次に衿先の縫込を折つて衿附縫代に綴ぢ附け,衿を表に引き返す。

右衿も左衿と同樣に縫つて返し.引返口を絎け,女物と同樣に躾をなす。

袖附

表袖附

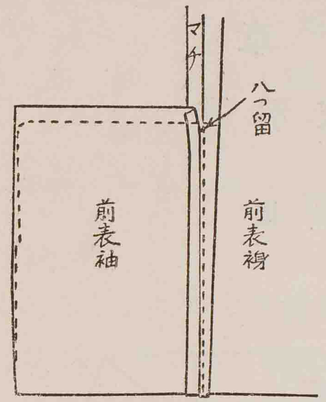
袖附の待針を打ち,袖附の始めと終りとは一針縫ひ殘す。

裏袖附。

後は一針,前は15.cm程縫ひ殘す。

袖八留及び袖下縫。

袖下を縫ふ時の樣に袖を裏返して,袖下の待針を打ち,袖附の止りで八留をなす。針の刺し方は布を正しく置いた順序になす。即右袖の場合は次のやうになる。



前表裾
前表袖
後表袖
後表裾
後裏袖
後裏裾
前裏裾
前裏袖

左袖は右袖の反對となる。

以上の順に針を刺し,再度同じ處を刺して,しつかり結んで糸を切る。袖下及袖形を縫ふ。

前襠附

女物に同じ。

裏袖附絎

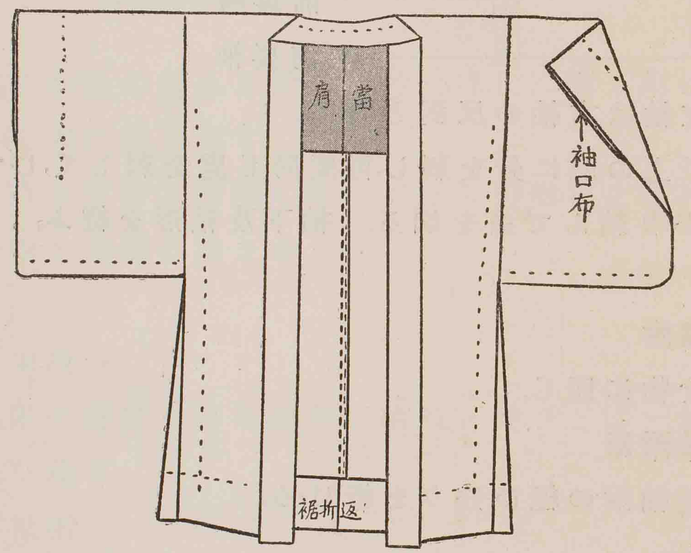
裏袖附の縫ひ殘りを絎ける。

仕上

第三章

大裁單衣羽織

出來上圖



地質

絹布　紗. 透綾. 絽. 絽縮緬. 竪しぼ. 御召. 羽二重.

毛織物　セル. サージ.

『備考』

絽は單衣羽織の季節を通じて用ひられる。

紗. 透綾. 等透物は盛夏。

絽縮緬. 御召. 羽二重. 等は盛夏には適しない。

仕立上寸法

男女とも袷羽織と同樣にするが身丈は 2.cm 位短くし後幅及前幅も 0.5cm 位狹くする事もある。

裾の折返幅は 8.cm 內外

裁方

1 裁切寸法の定方

袖丈＝仕立上寸法＋3cm

衿丈＝(仕立上身丈＋23cm)×2

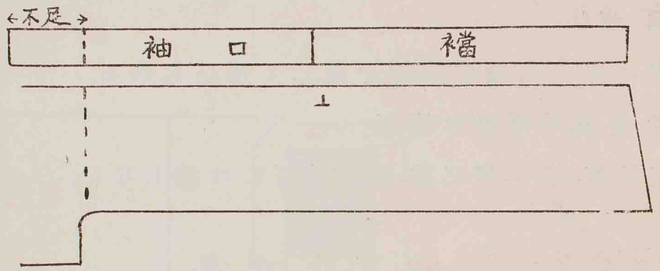
後身丈＝仕立上身丈＋裾の折返(15cm 內外)

前身丈＝後身丈＋前下

但前の裁落から,襠と袖口との布を取る爲に次の樣に前後の差を附ける。

前後の差 {(男) 袖口布丈－袖附
(女) 袖口布丈－(袖附＋身八口)

前身丈の餘分に長い部分は標附の際裁ち切る。



衿肩明
袖口布丈 }＝衿羽織に同じ

襠　丈＝{(男) 後裁切身丈－袖附＋襠上部紵代
(女) 後裁切身丈－(袖附＋身八口)＋襠上部紵代

肩當布＝毛織物には滑の良い物を附ける。其の他の場合は共布の斜布を力布として附ける。

衿芯＝透けて見苦しくない物を用ひる。

2 裁　方

附圖第六圖參照

(男) 袖丈×4＋衿丈＋後身丈×4＋前後の差×2＝總用布

{總用布－(袖丈×4＋衿丈＋前後の差×2)}÷4＝後裁切身丈

後裁切身丈＋前後の差＝前裁切身丈

(女) 身八口があるのみにて他は男物と同じ

標　附　方

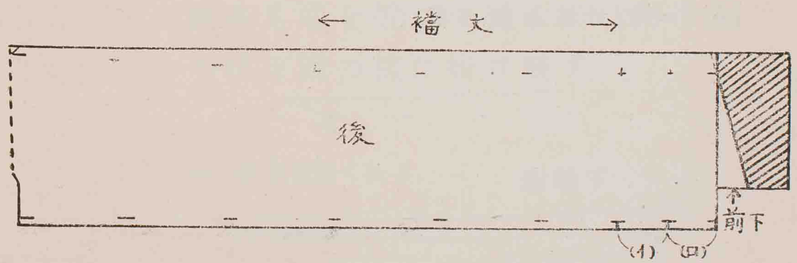
袖

單衣上仕立の時と同じ樣にする。袖口布は袖口寸法を 0.3cm 減じて標をする。

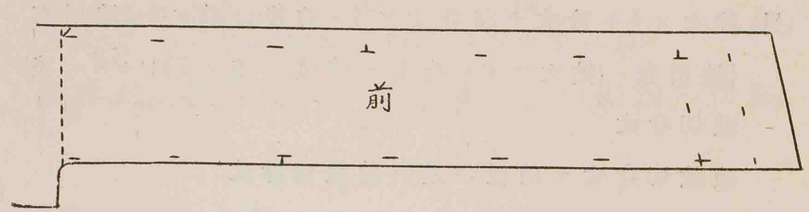
紋のある時は紋下を先づ定めてから標をする。

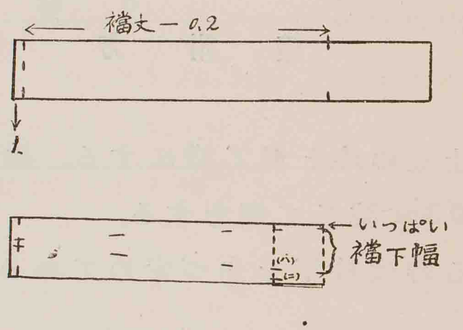
褄及襠

紋のある時は,紋合せをして背縫代を定め置く。



(イ)よりも(ロ)を 0.1cm 少くする。

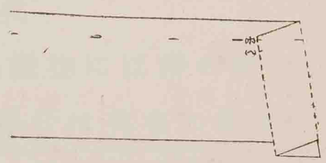




襠の裾を三折にして圖の樣に襠附の標をなす。

(ニ)は縫代一杯に度る。

(ハ)(ニ)の寸法を度り置く。



前裾を三折にして(ホ)の標をする。

(ホ)から(ヘ)までは襠の(ハ)(ニ)の寸法。

女物の時は襠上幅が廣くなるだけで變りはない。

縫　方

袖

袖口布の下部を折つて伏縫とし,袖口を合せて留をなし袖口下及袖下を縫ふ。

袖口布は留より下を縫つて縫目を開き,袖口下縫代に綴ぢ附け奥を折つて絎け附ける。

袖下の縫込を絎けて表に返す。

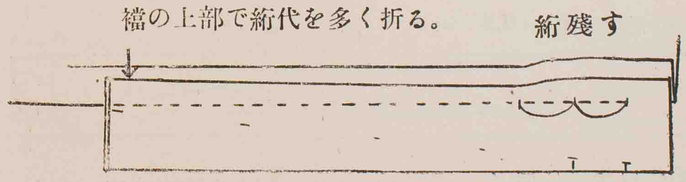
背　縫

耳に切込のあるものは袋縫とし其の他の物は二度縫をなす。

後　襠

襠の上部を三折絎になし圖の樣に裾を縫ひ殘して襠を附け,襠の縫込の端を折つて裙の縫込に絎け附け,脇の縫込も端を折つて裙に絎け附ける。

裾の折込の中は下圖の樣に絎け殘す。



衿　附（袋附）

前　襠

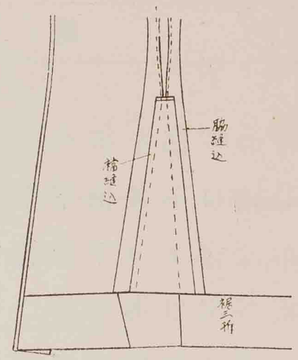
後襠に同じ。

裾　絎

袖　附

絹布上仕立に同じ。

仕上



鉤　襠

用布不足の時は襠裾の折返に別布を附けても良いが接目が折返の中に入らぬ時は鉤襠にする。

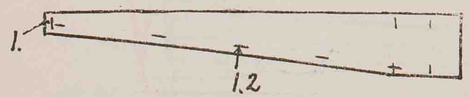
以下棒襠と異る點のみを記す。

(1) 裁　方

附圖第七圖參照

(2) 標　附　方

← 褄の後襠丈—0.2 →



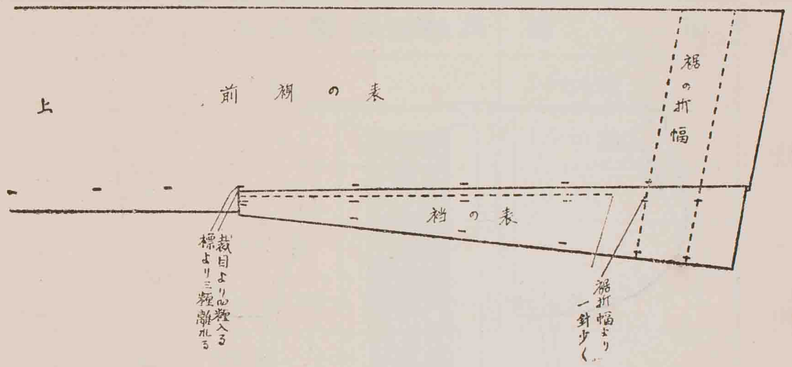
裾絎代は後褄に同じ

裾を三折にして後襠附の標をなす。(イ)の寸法を前褄に寫す。

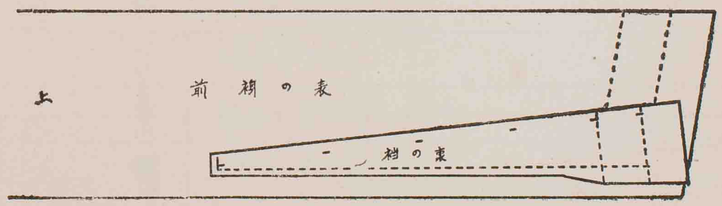
(3) 縫ひ方

前襠附を袋縫にする。

上部を三折絎にして下圖の様に縫附ける。



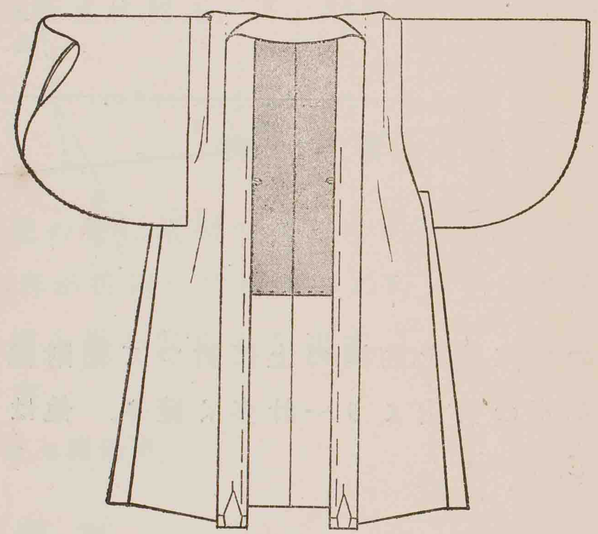
下圖の様に襠を前褄の上に折つて襠附標を合せて裾絎の折山より一針多く縫ふ。他は棒襠に同じ。



第四章

中·小裁羽織

出來上圖



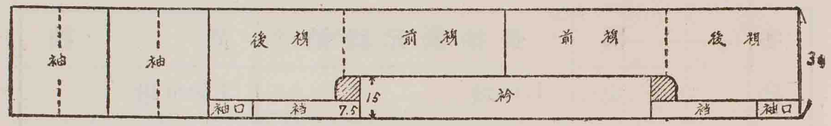
仕立上寸法

長着を標準としての增減

名稱	長袖及元祿袖	筒袖
袖丈	1cm 增	1.5cm 增
袖口	同寸	1.5cm 增
袖幅	0.4cm 增	同寸
袖附	0.4cm 增	
身丈	60cm…90cm 着丈×$\frac{3}{4}$+10cm內外	
繰越	0.5cm … 1cm	
衿肩明	0.4cm 增	
身八ツ口	8cm	
後幅	同寸	
肩幅	後幅に同じ	
前幅	いつぱい	
前下	2cm … 3cm	
乳下	肩山より25cm…28cm	
衿幅	4.5cm…5.5cm	
襠幅	上2.5cm 下 衿幅と同寸	

裁　方

四つ身裁羽織表の裁方



裁切寸法の定め方

後身丈＝仕立上身丈＋25cm（折返り）

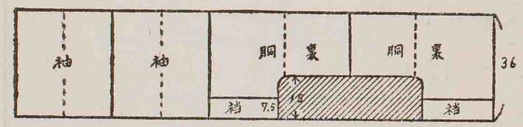
前身丈＝後身丈＋10cm……15cm 内外（前後の差）

衿　丈＝（仕立上身丈＋15cm）×2

用布の積方

（袖丈＋後身丈）×4＋前後の差×2＝表總用布

裏の裁方



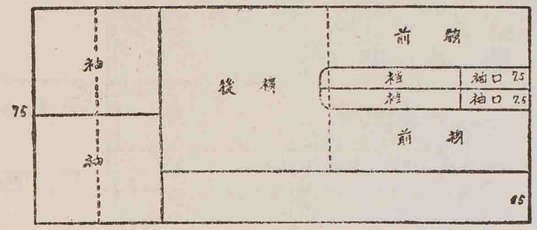
用布の積方

袖丈×4（後胴丈＋前胴丈×2）＝裏總用布

胴裏の裁方は大裁羽織と同樣に裁つもよい。

衿芯は別布に用ふ。

廣幅物にて四つ身裁羽織表の裁方

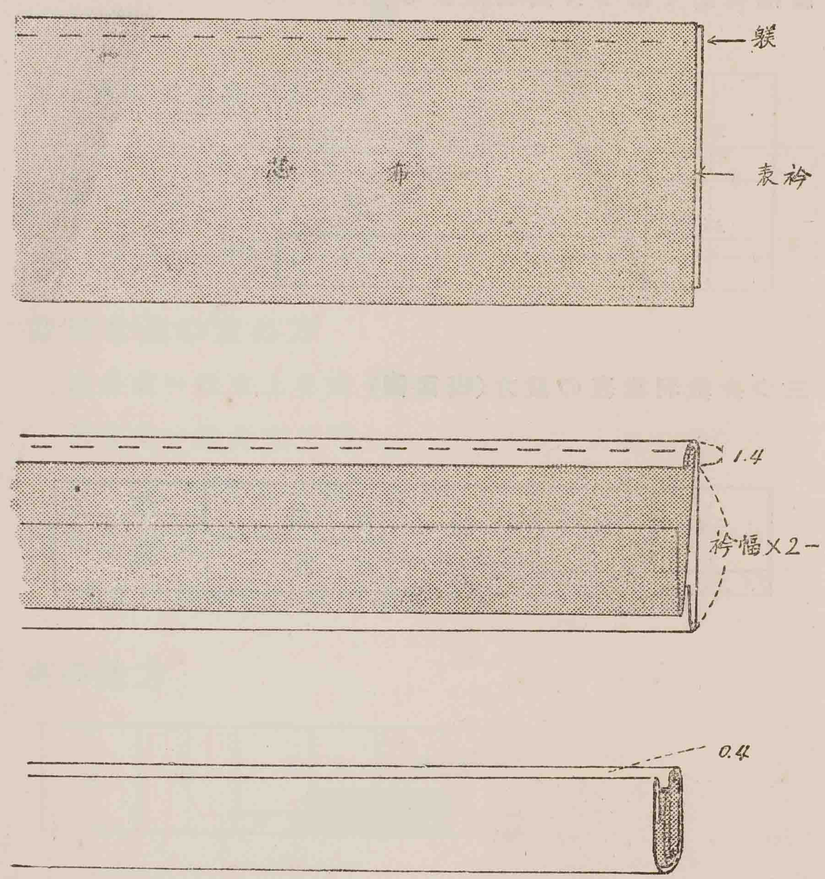


三つ身裁羽織表の裁方（兩面圖）

標　附　方

標附方は大裁羽織に準ず。

衿の折方



縫　方

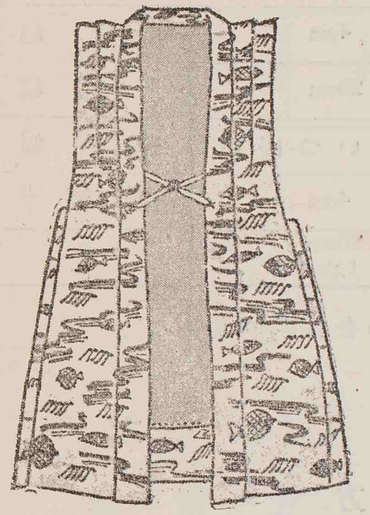
袷羽織の縫方は大裁の羽織に同じ。

綿入羽織は,袖を綿入長着と同樣に縫ひ,他は袖無織に準じて仕立てる。

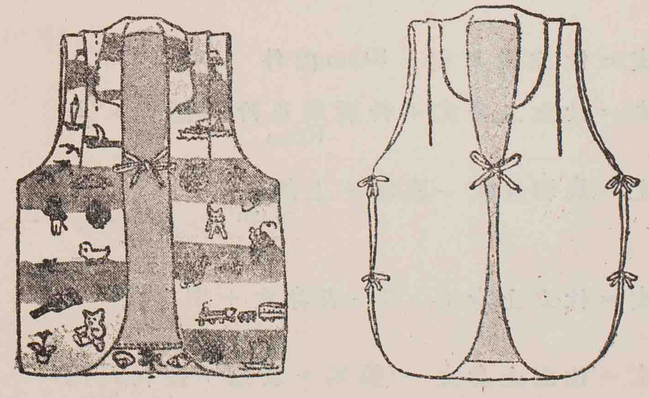
第五章

袖無羽織

出來上圖



變り型



仕立上寸法

名稱	寸法	名稱	寸法
身丈	55cm內外	脇明	22cm乃至25cm
衿肩明	4cm	繰越	0.5cm乃至1cm
紐下	20cm	肩幅	いつぱい
後幅	いつぱい	前幅	いつぱい
衿幅	4cm	襠幅 上下	4cm 5cm乃至6cm
紐 丈 幅	20cm 1.2cm		

前下をつける場合は 2.cm位

裁　方

裁切寸法の定方

表

身丈＝仕立上身丈＋10.cm內外

衿丈＝仕立上身丈＋衿肩明及衿先縫代×2
10.cm

襠丈＝裁切身丈－脇明＋上部縫代
1.cm

裏

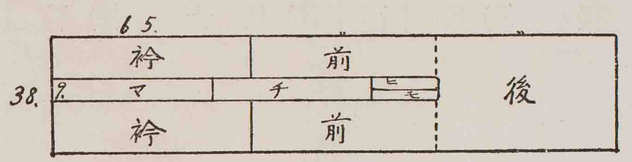
裏丈＝仕立上身丈×2－表身丈＋胴接代
5.cm

襠丈＝仕立上身丈－(脇明＋表返＋接代,縫代)
5cm

裁方積方

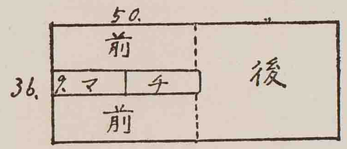
表

袖無羽織の表裁方　用布並幅 195cm



裏

袖無羽織の裏裁方



標　附　方

裕,襠,は羽織に準ず

衿の折方

縫　方

順序

(1) 胴接　(2) 襠附　(3) 脇明縫　(4) 綿入
(5) 縱綴　(6) 衿附　(7) 仕上　(8) 肩揚

方法

胴接

羽織に同じ

襠附

開き附にする。

脇明縫

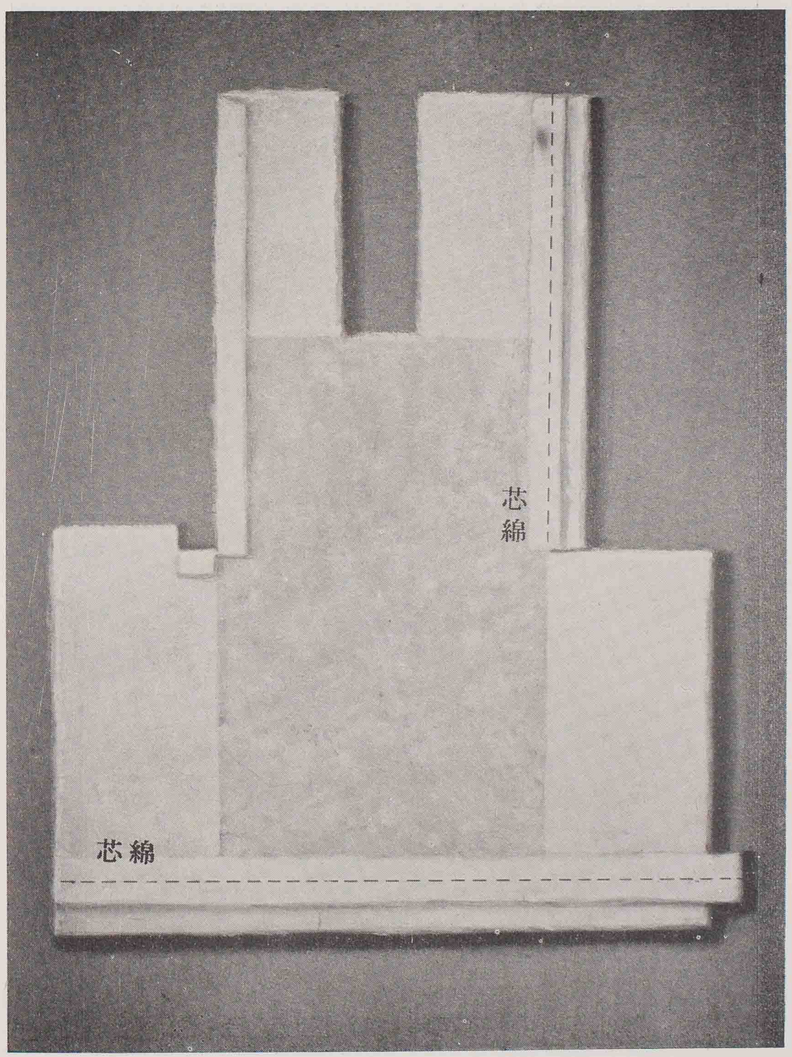
襠の上幅の間を縫合せて左右で四留をなし裏の方に3.cm程の綿を一枚綴ぢ附ける。

脇明を表は標より0.5cm廣く裏は0.5cm狹くなし脇明止で自然に丸味の附く樣に縫ふ。次に裏の方に着せを掛けて隱躾をなす。

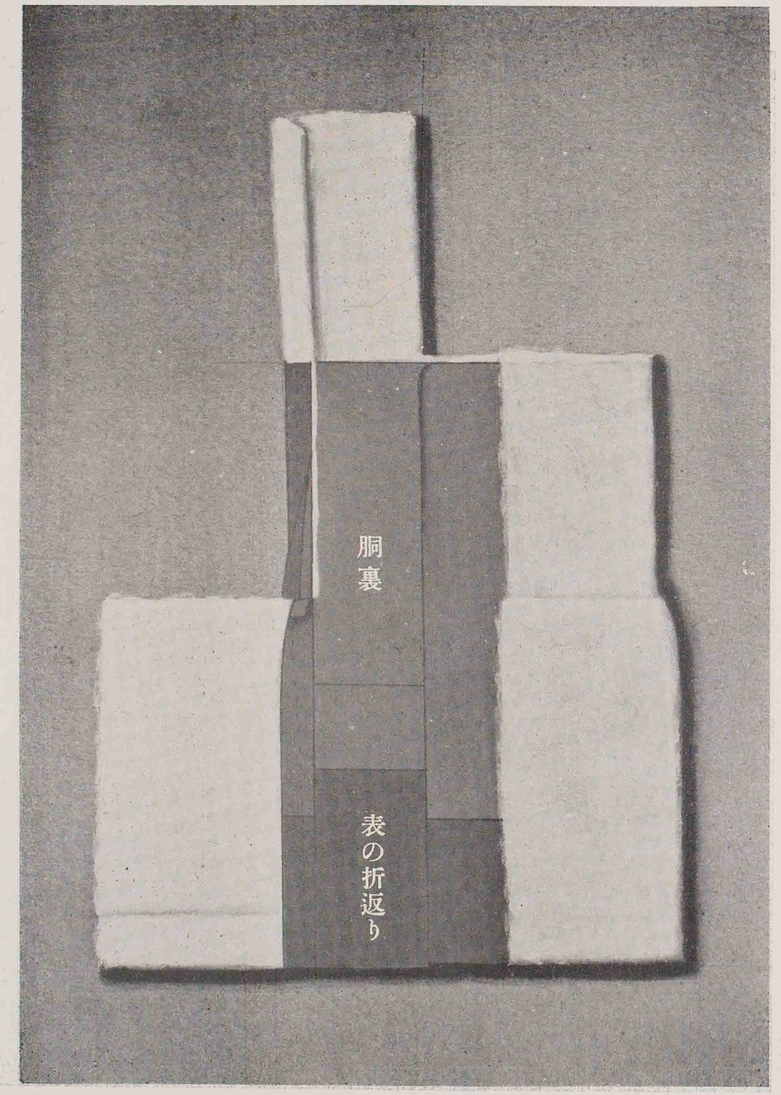
綿入

前褄を中に折り込んで後褄の裏を出し,其の上に圖の如く綿を置く。次に脇明より下の綿は前褄の間に折込み,肩から手を入れて裾山を持つて引返し,前褄に綿を入れ,表返して裾と脇明に躾をなす。

袖無羽織の綿の入れ方　其の一



袖無羽織の綿の入れ方　其の二

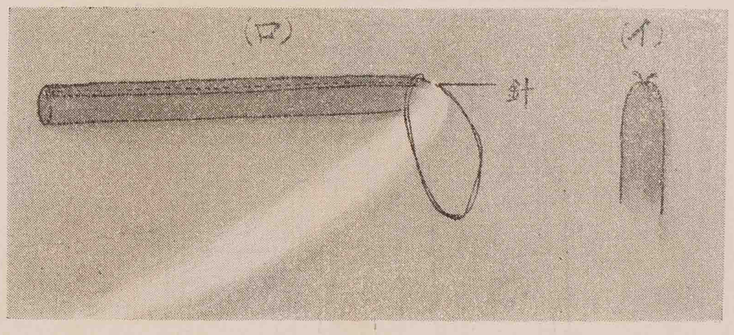


縱綴

前襠に縱綴をなす。

衿附

衿附廻を綴ぢて紐を附け,衿附をなす。紐は出來上幅に縫ひ,眞綿を紐の太さに伸ばして(イ)圖の樣に紐の端に綴ぢ,引糸を附けて表に返し,先の方を(ロ)圖の樣に作り置く。



仕上

肩揚

前後共に脇明止から5cm位上まで肩揚をなす。方法は小裁綿入に同じ。

變り型袖無

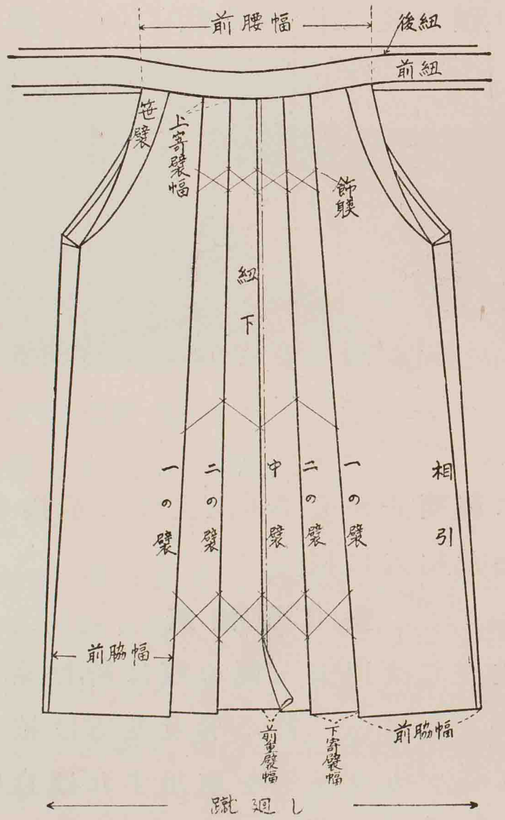
用布に依つては出來上圖の樣に衿,裾,脇等は種種工夫するも良い。衿の形及裁方は被布衿,或はローリングカラー等を應用すれば良い。

第六章

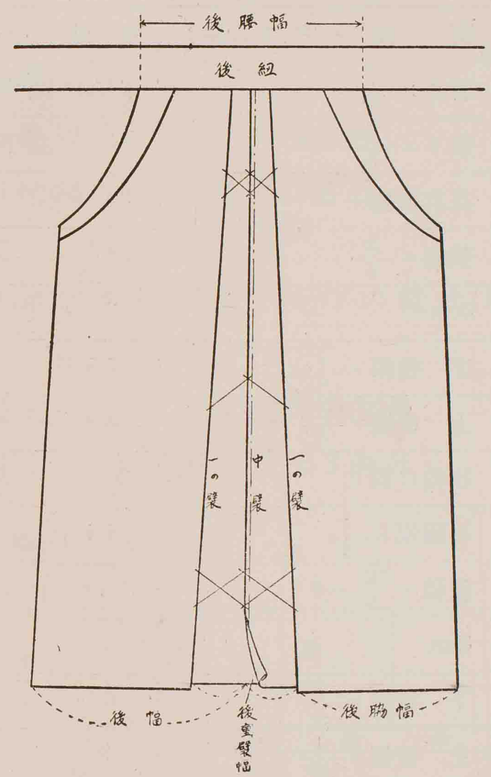
女袴

各部の名稱

前



後



地質

地質	布幅
メリンス	75cm
セル	75
サージ	75……144
カシミヤ	110……144
綿セル	73
綿カシミヤ	73